

事業の基礎情報

実施主体	岡山県赤磐市
事業実施地域	赤磐市全域 ※AIデマンド交通の運行は熊山地域
共創の種類	官民共創・他分野共創
他分野共創の種類	医療・介護・福祉
共創パートナー	赤磐市タクシー連絡協議会、赤磐市熊山診療所、あかいわハートフル太陽、赤磐市社会福祉協議会、Aコープくまやま店、アプリ・システム事業者
運行形態	AIデマンド交通
運行主体	赤磐市タクシー連絡協議会所属のタクシー会社

取組の概要

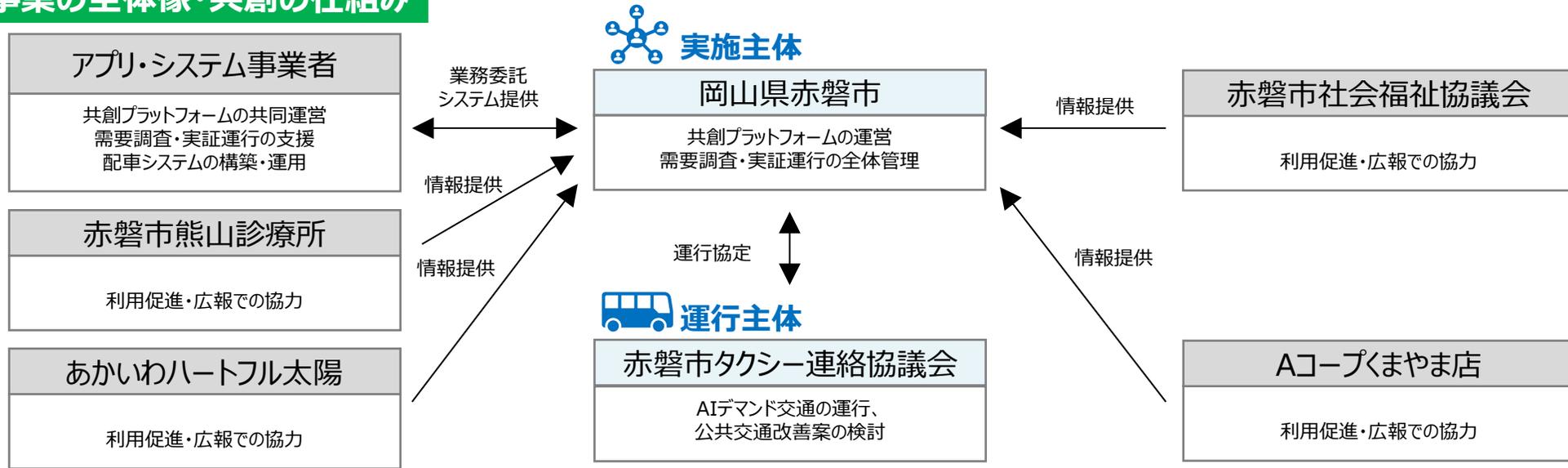
(現状の地域課題と事業目的)

民間路線バスの運行に加え赤磐市では、地域住民の移動手段を確保するため、補完的に定時定路線型11路線、デマンド型7区域で市民バス、広域路線バス2路線を運行している。また、地域によっては共助の一環でボランティア輸送を行っている。しかし、便数が限定されたり、停留所まで歩くのが困難などの理由により、利用が低調な市民バス路線事業費の増大などの課題がある。本プラットフォームでは、こうした状況に的確に対応するため、各公共交通事業者および関連機関と協力し、需要調査や実証運行を通じて利便性の高い公共交通網の構築及び最適化を行う。

(事業の概要)

公共交通の拡充及び最適化を進めるためには、具体的な方針策定のために移動需要の調査が必要である。そのため、赤磐市タクシー連絡協議会、赤磐市熊山診療所、あかいわハートフル太陽、赤磐市社会福祉協議会、Aコープくまやま店、アプリ・システム事業者と協業し、移動データの取得、アンケート、ヒアリングを通じて、需要調査を行う。また、民間バスが走っておらず、市が自家用有償運送を行っている「熊山地域」においては、オンデマンド交通の実証運行を行い、費用対効果を分析するとともに、新たに発見された需要に基づき、利便性の高い公共交通の構築を進める。

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

(地域の関係者との連携・協働)

需要調査は、赤磐市タクシー連絡協議会、赤磐市熊山診療所、あかいわハートフル太陽、赤磐市社会福祉協議会及びAコープくまやま店と協力し、これまで実施してきた既存アンケートデータの分析、ヒアリング等の分析を行う。実証運行は、アプリ・システム事業者のシステムを活用し、赤磐市タクシー連絡協議会に所属する複数のタクシー会社で協力して、AIオンデマンド交通（バス）の運行を行う。

(実証事業により見込まれる効果)

AIデマンド交通の実証運行により、600人（令和6年12月～令和7年1月）の利用を見込んでいる。（令和5年度定時定路線の輸送人員は約3,600人見込み：可真・桜が丘東線、松木・下市線を除く。）また、利用者低調路線の最適化及び路線変更による事業費の軽減を目指す。

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)

【需要調査】

● 現況調査・マッピング

- ・自治体の基本情報、公共交通機関の状況等を集約
- ・視覚的に分かりやすいよう、適宜マッピングを実施

● 移動データの収集

- ・現状の公共交通機関の利用状況を調査（乗降者数等）
- ・住民の方々の移動データを収集
- ・収集した移動データをもとに、住民の移動需要を分析

● 既存アンケートデータの分析

- ・仮想的な需要の分析
- ・公共交通に対する住民の評価・需要の把握（令和4年度実施データを活用）

【実証運行】

熊山地域において、配車アプリを導入してAIデマンド交通の実証運行を行う。なお、主な対象である高齢者には、スマホ利用講座を地区ごとに行う。

(補助事業実施後の予定)

熊山地域のAIデマンド交通は、効果測定結果を踏まえて改善を行い、令和7年度以降も継続していく予定である。幹線（県道）の路線バスは継続するが、支線や集落を回っている路線をAIデマンド交通へと移行する方向性で検討を行う。また、既にデマンド交通を運行している2地域も、アプリ・システムを導入し、運行形態を改善する。人口の少ない過疎地域から徐々に導入し、最終的には民間路線バスと共存共栄しながら、中心部である山陽地域での導入も検討していく。

	調査	実証運行
5-6月	移動データの取得 既存アンケートデータの分析/ヒアリングの分析	
7-9月		運行準備 運行地域の確定 広報
12-1月		実証運行
2月		効果検証 実績報告